



# まちの駅ニュース

人と人の出会いと交流をサポートする  
まちの情報発信基地

## 1. まちの駅運営幹事会を Zoom で開催しました

2月22日、全国まちの駅連絡協議会の運営幹事会を Zoom で行いました。久住時男会長の挨拶で始まり、今年度の中間報告と次年度の計画づくりに向けた意見交換を行いました。コロナ禍で各地のまちの駅の活動も滞りがちですが、オンラインを活用した交流の場が始まっています。まちの駅の仲間は、官民混在、職種も多種多様ですので、同業種でのオンライン交流会やネットワーク同士での交流会の開催報告も行われました。



まちの駅全国大会は、新潟県見附市で8月27日(金)～28日(土)に開催予定です。コロナ感染予防のため、会場への入場者も人数制限をすることになりそうですが、オンライン参加とのハイブリッド方式を導入することも検討中です。見附市はまちづくりでも先進地ですので、様々な学びの機会になるでしょう。どうぞお楽しみに。

## 2. 佐賀県小城市で「まちの駅おもてなしお茶会」が開催されました



小城市は、佐賀県の中央に位置し、佐賀市と隣接する人口44,000人の市です。小城市まちの駅まちづくりネットワーク(小柳容子会長)は、小城市を訪れる方や住民の方々に4つのおもてなし(休憩・案内・連携・交流)を基本テーマに、さまざまな取り組みを行っています。そのひとつが「まちの駅おもてなしお茶会」です。

この催しは、毎年、桜の咲くころに、桜の名所小城公園で行っていましたが、今年は、新型コロナウイルス感染対策のため、小城市まちなか市民交流プラザ、ゆ

めぷらっと小城市の「開館5周年ありがとう感謝祭」に合わせて、1月5日に催しました。ゆめぷらっと小城市は、小城市の中心にあり、市民の方々はもちろん、県内外からの利用者も多く、中心市街地の活性化に貢献している施設です。

当日は、来場された方々に、抹茶と小城市の特産「小城羊羹」をふるまい、心のこもった「おもてなし」で、小城市の魅力を発信することができました。これからも、人と人との絆を大切に、「おもてなし・おもしろい」の心で、さまざまな取り組みを、新たな視点で積極的に推進したいと思っています。



小城市まちの駅まちづくりネットワーク 理事 八木 信一郎

## 3. まちの駅青梅の「made in ome」事業を見学しました

※まちの駅青梅の「made in ome」事業のモニターツアー予定コースを、レガロ工房メンバーと巡ってきました。

はじめにレガロ工房の紹介をさせていただきます。レガロ工房は、高校生が自ら会社を運営する「模擬株式会社」です。「レガロ工房」という社名は「心を含めた作品を贈りたい」「笑顔を届けたい」という思いから、イタリア語で贈り物を意味する『REGALO』という単語をもとに命名されました。

我が社は、「地域交流」「地域活性化」「社会貢献」を基本理念としている広告企画会社で、荒川区や商店街のイベントポスター制作やチラシ制作ロゴデザインを主に事業内容として活動しています。レガロ工房ではイラストレーター・Photoshop・InDesignなどのデザインソフトを使い日々勉強しながら制作を行っています。

レガロ工房は2月21日に「青梅ファンと持続可能な交流創出への取り組み」に参加しました。ですが、コロナ禍のためモニターツアーが中止になり、オンラインツアーに変更になりました。残念に思っていたら主催者のご好意で実際に現地を見学することができました。コロナ感染防止のためにいろんなところで検温、消毒が行われてい

ました。私は初めて青梅市に行き、こんなにも自然溢れたとこだと知りました。コロナ禍でどこにも行けてなかったので青梅に行っても贅沢な時間を過ごすことができました。

青梅に着いて最初に向かった場所はトマトガーデンです。トマトガーデンのトマトの特徴はサクランボの佐藤錦のような「艶」だそうです。確かにトマトの表面は艶がありました。赤いトマトは甘酸っぱく、黄色いトマトはフルーツみたいでした。その後、近くにあることから塩船観音寺に行きました。塩船観音寺は「花と歴史の寺」と言われているみたいで、花は季節ごとに様々な花が咲いていて、私が行った時は見られなかったけど、また行って見たいですね！4月中旬～5月上旬は、ツツジで境内一面が鮮やかな紅色になるそうです。9月中旬～10月中旬は、彼岸花が赤や白、ピンクなどの花を咲かせることが特徴らしいです。

青梅駅前に戻って駅近くも散策しました。津雲邸では、「ひな祭り」をやっていました。二階に上がると大きなひな人形がありました。津雲邸は歴史を感じるものなどが飾られていて、とても魅惑のひとときを過ごすことができました。昔使われていたものなどがあり、興味を持ちました。

そのあとも青梅を散策していると「にゃにゃまがり」や「様々な看板」がありました。にゃにゃまがりでは、足元や壁などに猫が描いてあったりしました。猫になった気分で、顧問の野村頼和先生も楽しんでいました。様々な看板とは昔の映画の看板のことで、青梅のまちの所々にあってレトロで昔に行った感じでした。

いつかツツジが咲いている塩船観音寺や、大人になって澤乃井酒造に出かけてみたいと思います。



塩船観音寺



多摩川沿いにある澤乃井酒造にて

東京都立荒川商業高校 模擬株式会社レガロ工房 代表取締役社長 大塚 葉月

## 4. 鹿沼と長岡のまちの駅メンバーでオンライン交流会を開催しました

2月26日、まちの駅ネットワーク鹿沼と越後長岡まちの駅ネットワークがZoomをつないだ交流会を開催しました。交流会では、「With コロナ時代のまちの駅の在り方について」をテーマに、令和2年度に実施した事業を紹介し合いました。

長岡からは、利用者に対するアンケート調査の結果を発表しました。また、まちの駅を研究する長岡大学鯉江ゼミの学生から、学生やその家族に対して実施したまちの駅に関するアンケート調査の結果についても発表していただきました。

鹿沼では、まちの駅ネットワークかぬまのホームページの運用方法や各駅の方が集まって更新方法などを勉強する講習会の開催、コロナ禍において注意喚起をするためのソーシャルディスタンスポスター・シールの作成、まちの駅姉妹提携をした東京・会津・焼津をリモートでつないだ懇親会、地元観光協会のまちめぐりイベントの協力などについて発表していただきました。

その後の意見交換では、コロナ禍での日々の活動や苦勞などについての情報共有を行いました。また、2年前に実施した長岡花火大会での交流などを懐かしむ一幕もありました。

リモートではありましたが、顔を合わせて話をする事の大切さを改めて実感することができました。

越後ながおかまちの駅ネットワーク 海津理奈



## 5. 第3回姉妹まちの駅オンライン交流会(会津まちの駅の日)

第3回姉妹まちの駅オンライン交流会は、3月19日に開催されました。オープニングは稲生孝之さんが会津若松市街の様子をスマホで映しながら紹介。コロナ禍で人影もまばらでした。続くサプライズイベントは会津東山芸妓による演舞。モニター越しでしたが、第21回まちの駅全国大会 in 会津の大交流会以来の月乃さんの演舞を鑑賞しました。月乃さんに芸妓になった理由を尋ねると「会津のために芸妓にならないかと誘われて、会津のためになるのであれば」と思い、決心したそうです。🍵





その後、荒川区の明戸真弓美さんの音頭で乾杯しました。会津からの物産は、馬刺しと会津の地酒。佐々木洋一さんから説明があり、会津は熊本、長野と並び日本3大馬刺しのまちで、辛子味噌で食べるのが会津の食べ方ですが、昭和30年にプロレスの力道山が持参した辛子味噌で馬肉を生食したことが、会津の馬刺しの始まりだそうです。現在、生で食べられるレバーは馬と鹿のみ。8月29日の「馬肉の日」には会津若松市で馬肉イベントが開催されるとのことです。

美味しい食べ物、美味しいお酒、楽しいコミュニケーションが交流の原点。「交流することで地域課題の多くが解決できる」がまちの駅の基本理念。今回も、ミュート（消音）にしたまましゃべり続けたり、ハウリングを起こしたり、音声が途切れたり、細かなトラブルは多々ありましたが、それも一緒に楽しんでしまおうというおおらかなオンライン交流会は、まちの駅のおもてなしの心に通じることでしょう。

30日には、鹿沼、焼津、会津、荒川の各まちの駅の代表や事務局で、今後の進め方を話し合いました。

## 6. 「リハセンターにんじん・健康の駅」で新型コロナ感染が発生

「リハセンターにんじん・健康の駅」は東京都国分寺市にある通所型の介護事業所です。社会福祉法人にんじんの会が運営し、地域に密着したきめ細やかなサービスを提供しています。ISO9001 認証も取得しており、2015年12月に健康の駅に認証されました。

本年1月、隣接する「介護老人保健施設にんじん健康ひろば」でコロナクラスターが発生しました。職員が体調不良を訴え外部のPCR検査を受けたところ、1月12日に陽性が確認されました。職員を休養させると共に対策本部を設置しました。13日からスクリーニングやPCR検査で陽性者をあぶり出し、18日までに職員3名、利用者11名、合計14名の感染が確認されました。保健所に届け、入院手続きをしましたが、ちょうど都内感染者のピーク時であり、利用者3名の入院先が見つからず、施設内療養となりました。



発生初期の対策として、まずは情報を集約・整理し、感染者リスト・マップを作成しました。発生した3階の利用者の食事や行動を整理し、感染エリアと非感染エリアの区分けをしました。迅速にPCR検査ができるように検査キットを手配したり、消毒薬やペーパータオル、手袋などの衛生物資を確保しました。人手が足りない分は、他の事業所へ応援スタッフを依頼しました。

感染フロアでは上履きも履き替えるようにし、感染エリアをレッドゾーン、緩衝エリアをイエローゾーン、階段部などの非感染エリアをグリーンゾーンに色分けしました。个人防护具の装着方法を徹底させ、レッドゾーンには完全防備をして入りました。感染を広げないようにレッドゾーンに入る職員を固定化するとともに、その職員の精神的負担を減らすためのケアも行いました。

食堂では厨房を守るために、使った食器や食べ残しが厨房に戻されないように、使い捨ての食器に替えました。また、食堂にベッドを持ち出すなど、場所を工夫して感染の疑いのある方を準隔離しました。施設には認知症の方もいますが、マスクを嫌がったり、食事席の間隔を広げると見守りの範囲が拡大して安全確保が難しくなるなど、感染予防にも苦労しました。

施設内療養となった3名には、常勤の医師が対応しました。コロナ治療薬の投与が必要になったら入院させる方針で、風邪症状や発熱に対して一般的な解熱剤と抗生物質を投与したところ、症状は改善しました。その後入院することなく軽快しました。入院した方も感染力がなくなると施設に戻り始めました。残念ながら、2名の方がもともとの持病の影響もあり、入院中に亡くなりました。



パーティーションの向こうがレッドゾーン

陽性者発生期間は実質1週間で抑えられたため、早期に終息させることが出来ました。とは言え、隔離状態が変わるたびに、ゾーニングの変更をしなければならず、うまくいかなかったことも多々ありました。感染する前は、日頃からの感染予防策もあり、自分は大丈夫だろうという気持ちがあったのですが、感染はいつでもどこでも起こるものだと実感させられました。この経験を今後に生かしていきたいと考えております。

リハセンターにんじん・健康の駅 駅長 清水桂司

## 7. 「空き家」問題解決に向けた取り組み紹介

総務省統計によれば、平成30年の日本の住宅総数は6242万戸で、うち空き家は846万戸。7戸に1戸は空き家という計算になります。さらに、明治大学の野澤千絵教授によれば、子ども世代が相続しない「空き家予備軍」は720万戸以上。処分するにもお金が掛かるため「負動産」という言葉まで生まれています。じわじわと忍び寄る「空き家問題」ですが、解決に向けたユニークな取り組みを紹介します。

### ① 空き家マッチングサイト“家いちば”

“家いちば”は、売り手と買い手が空き家の売買を直接メールでするマッチングサイトです。サイトへの掲載を売り手自身が行う「セルフセル方式」のため、誰でも、どんな物件でも無料で掲載できます。物件紹介だけでなく、売りに出した理由や経緯を記載することも特長の一つです。料金は商談が成立した時点で発生しますが、物件の事前調査や内見業務を省略しているため、通常の不動産手数料よりもかなり安価です。

掲載物件も様々で、床が抜けた家やごみ屋敷が数万円で出されたり、土地付きのポツンと一軒家があったり、学校や旅館、ホテルなどの施設も売り出されています。雨漏りする家では、内見の時、雨漏り用のバケツに水がたまっただま購入希望者に見てもらったそうです。代表の藤木哲也さんによると「価格交渉によって商談が成立しますが、売り手は一番高い価格を付けた方に売るよりも、一番ふさわしいと思う人を選んでいきます。単純に金額で決めるのではなく、売主が自ら学びつつ買い手を見極めるプロセスが組み込まれていることが重要」だそうです。

### ② 多拠点コリビングサービス“ADDress”

“ADDress”はシェアリングエコノミーの一形態で、全国各地の登録物件に月額(月額4.4万円～税込み)で住むことができるコリビングサービス「(共有シェアハウス+シェアオフィス)」を提供しています。観光とも移住とも違う新しい暮らしのカタチを提供し、働き方の多様化やさまざまなライフプランに応じた生活拠点の気軽な変更を可能にするサービスです。現在利用できる家は全国に140ヶ所以上で、4月末には全都道府県を網羅します。場所も商店街のど真ん中、海が目の前の元民宿、古民家など、特徴のある家が揃っています。

宿泊業ではないため、賃貸者契約を交わして住まいを提供する仕組みで、炊事や掃除も自分たちで行います。代表の佐別当隆志さんによると「旅行とは違い、住むことで地域の人との交流が発生します。祭りや農作業、その他の仕事など、地域の人とともに暮らすというコンセプトで選択肢を提供しています。さらに、家守(やもり)と呼ぶコミュニティマネージャーがいて、皆さんに地域を案内したり、住民とのつなぎをします」とのことです。

## 新規まちの駅のご紹介 (令和2年4月から令和3年3月までの加盟駅)

| 都道府県 | 市町村 | まちの駅名           |
|------|-----|-----------------|
| 宮城県  | 加美町 | だんごの駅           |
| 福島県  | 福島市 | まちの駅アオウゼ        |
| 栃木県  | 鹿沼市 | 木の駅             |
|      | 鹿沼市 | 交差点の駅           |
|      | 鹿沼市 | 新鹿沼駅前でカンパイ☆の駅   |
|      | 佐野市 | アグリタウン          |
|      | 佐野市 | さの惣酢屋           |
| 埼玉県  | 本庄市 | お花いっぱい駅         |
|      | 本庄市 | ミュージックステーション(駅) |
|      | 本庄市 | ラジオの駅           |

|     |      |                 |
|-----|------|-----------------|
| 埼玉県 | 本庄市  | でんきの駅           |
|     | 本庄市  | お片づけの駅          |
|     | 本庄市  | 中山道レンガの駅        |
|     | 本庄市  | スポーツの駅          |
| 新潟県 | 見附市  | 人・農・食の駅         |
| 福井県 | 大野市  | まちの駅 花桃         |
| 岡山県 | 津山市  | まちの駅 城西浪漫館      |
| 広島県 | 竹原市  | 自転車の駅           |
|     | 廿日市市 | お母さんが作る手作りランチの駅 |
| 福岡県 | 粕屋町  | スポーツと身体メンテナンスの駅 |
|     | 粕屋町  | 旅立ちの駅           |
|     | 粕屋町  | 元気一番!うまめしの駅     |

### 編集後記に代えて

令和2年10月8日、まちの駅九州・沖縄ブロックの運営幹事の**下津公一郎**さんが逝去されました。下津さんは、平成15年～16年度の2年間、鹿児島県で「暮らしの交流拠点ネットワーク作成業務」を行った時に、鹿児島県内の仲間を広く声かけして集めてくださり、田中栄治も驚くほどでした。それが県単位のまちの駅ネットワークが設立するきっかけとなりました。下津さんのご恩に報いるように、今後も頑張っていきたいと思っております。今頃はあの世とやらで、田中さんと一杯やっているかな。心よりご冥福をお祈り致します。